

## 【原著】

医療系学生の Interprofessional Work ワークショップによる  
実践能力およびコミュニケーションに関する教育効果の検証今秀徳\*1 成田秀貴\*2 藤田俊文\*2 藤田あけみ\*2 野村理\*3 田中真\*2  
藤岡美幸\*2 大庭輝\*2 北宮千秋\*2 工藤幸清\*2 鬼島宏\*3 富澤登志子\*2

(2024年1月31日受付, 2024年4月1日受理)

**要旨:** Interprofessional Work (以下, IPW) 能力とコミュニケーション能力への教育効果を検証することを目的とし, 3大学の医療系学生を対象に, ワークショップ形式の演習による Interprofessional Education (以下, IPE) を行った。演習では 5~6人のグループで多系統萎縮症の患者のケアについて, 専門職として意見交換を行い, ケアの方針をまとめ, 発表と質疑応答を行った。調査方法は演習前後の質問紙調査とし, 調査項目は学年や学部・学科等の基本属性, IPW能力を CICS29, コミュニケーション能力を KiSS-18により測定した。有意水準は5%未満とし, 演習前後の各得点を比較した。回答の得られた36名を対象とし, CICS29総得点は演習前113.3±13.7点, 演習後125.3±12.1点, KiSS-18総得点は演習前62(四分位範囲:56-70)点, 演習後72(四分位範囲:63-82)点であり, いずれも有意に向上した。演習で専門職として自身の意見を述べ, 専門外の分野については他職種の意見を求めたことにより, IPW能力とコミュニケーション能力が向上したと考えられた。

**キーワード:** インタープロフェッショナルワーク, インタープロフェッショナルエデュケーション, コミュニケーション, 教育, ワークショップ

## I. はじめに

近年は高齢社会の進展に伴い, 患者・家族への医療・ケアはより複雑化し, 領域を超えたチーム医療へのニーズが高まり, チーム医療の重要性や Interprofessional Work (以下, IPW) への関心が高まっている<sup>1)</sup>。

これまでの IPW 能力を高める Interprofessional Education (以下, IPE) に関する研究では, 医学生, 看護学生, 薬学生による短期のワークショップを行うことで専門職種間の社会化が促進され, 特に看護学生や薬学生において顕著に向上した<sup>2)</sup>。また高齢者の緩和医療をテーマとした多職種の医療系学生に模擬患者のシミュレーションワークショップにより, コンピテンシーに関して自信が高まった<sup>3)</sup>。その他にも1日の臨床実践の場を見学する実習<sup>4)</sup>, 薬学部の学生とともに行う実習<sup>5)</sup>等の実践的な教育により, IPW能力が向上していることが報告されてきた。複数の学部学生も含めたワークショップによる教育が有用であることも示唆され<sup>6)</sup>, IPW能力を高める教育に関する研究が多くされている状況である<sup>7)</sup>。IPWでは, 多職種理解を深め, 連携を取るだけでなく, 患者の家族や地域住民といった職種を超えた対象との連携が必要である。円滑な IPW を遂行す

るためには, 綿密な連携や信頼関係を築く必要があり, IPW能力, コミュニケーション能力が必要と考える。

そこで本研究では, 医療系学生を対象にワークショップ形式の IPE (以下, 演習) を行い, IPW能力やコミュニケーション能力への教育効果を明らかにすることを目的とする。本研究により, IPEの演習による IPW能力とコミュニケーション能力への教育効果を示すことができ, IPEの発展に寄与することが期待できる。

## 用語の定義

IPW: 厚生労働省<sup>8)</sup>や Canadian Interprofessional Health Collaborative<sup>9)</sup>, Interprofessional Education Collaborative of Interprofessional Collaborative Practice のコンピテンシー<sup>10)</sup>から, 複数の専門職とともに患者・家族・地域住民を中心とした共通目標を持ち, お互いの役割を理解した上でチームとして協働することとする。

## II. 対象と方法

## 1. 対象

保健学概論演習を受講する A 大学医学部保健学科3年生以上, 心理支援科学科4年生以上の学生, 多職種連携ワークショップを受講する A 大学医学部医学科2年生以上, B 大学保健学部看護学科と医療技術学科の3年生以上, C 大学看護学部3年生以上の学生とした。

## 2. 調査方法

演習前 記名自記式質問紙または Microsoft Forms

演習後 記名自記式質問紙

## 3. IPE の概要

演習を通して, 各専門職の役割や多職種との連携を理解

\*1 弘前大学医学部保健学科  
Hirosaki University School of Health Sciences  
〒036-8564 青森県弘前市本町 66 番地 1 TEL:0172-33-5111  
66-1, Honcho, Hirosaki-shi, Aomori, 036-8564, Japan

\*2 弘前大学大学院保健学研究科  
Hirosaki University Graduate School of Health Sciences  
〒036-8564 青森県弘前市本町 66 番地 1 TEL:0172-33-5111  
61-1, Honcho, Hirosaki-shi, Aomori, 036-8564, Japan

\*3 弘前大学大学院医学研究科  
Hirosaki University Graduate School of Medicine  
〒036-8562 青森県弘前市在府町 5 TEL:0172-33-5111  
5, Zaifucho, Hirosaki-shi, Aomori, 036-8562, Japan  
Correspondence Author: narita1416@hirosaki-u.ac.jp

し、IPW 能力、コミュニケーション能力を養うことを目的として、以下のように実施した。

### (1) 事前学習

保健学概論演習の受講者は、e-learning と演習の前に 2 日間の IPW に関する講義を行い、受講していない学生は e-learning のみ行った。e-learning では、IPW 能力とコミュニケーション能力の知識を事前に学習できるように、以下の内容を含めた；①グループダイナミクスと集団規範、②集団圧力と援助行動、③協働、④多職種連携の種類（マルチプロフェッショナルワーク、トランスプロフェッショナルワーク、インタープロフェッショナルワーク）とポイント（分業・協働の推進、チームの共有する目標、多面的・総合的な評価・各専門職の情報の統合、共通の概念・言語を持つ、専門性の向上、柔軟な姿勢、保健・医療・福祉の変化する情報の的確な把握、リーダーシップ・連携スタッフの育成、連携・協働モデル）とした。また、e-learning ごとに知識を問う確認テストを実施した。

### (2) 演習

医療系学生 5~6 人でグループを構成し、以下の流れで 4 時間の演習を行った。

#### ① アイスブレイキング

グループごとに自己紹介と他己紹介によるアイスブレイキングを行い、参加者の緊張を和らげ意見交換しやすい雰囲気作りをしてから事例を提示した。事例検討の前に各々の知識を掛け合わせて疾患について考えてもらうために、疾患名（多系統萎縮症）を伏せ、患者の症状や経過から疾患を予想することから始めた。グループワーク開始前に疾患名を明示した。

#### ② グループワーク

疾患について各自で調べた情報をグループごとに共有し、各職種の視点から活発な意見交換を行い、ケアの方針を立てるよう促した。ケアの方針のまとめ方については特に指定せず、付箋と模造紙を自由に活用するよう説明した。

多系統萎縮症は難病指定されており、講義や実習で触れる機会が少なかった。各自で調べる必要がある事例を用いることで、情報を共有するために全員が発言し、より活発な意見交換となるように工夫をした。

職種ごとに考えた患者の課題や介入等の意見は付箋に記載し、模造紙に貼ることで共有がされた。また、模造紙上で自由に付箋を移動させることができ、ケアの方針をまとめる試行錯誤を可能とした。

#### ③ 発表と質疑応答

まとめられたケアの方針については、作成した模造紙を映写して全体で共有し、発表と質疑応答を行った。

## 4. 調査項目

### (1) 基本属性

所属する大学と学科・専攻、学年

### (2) IPW 能力

IPW の実践能力を評価する尺度である Chiba Interprofessional Competency Scale (以下、CICS29) を開発者の許可を得て使用した<sup>11)</sup>。本尺度は、プロフェッショナルとしての態度・信念 6 項目、チーム運営のスキル 5 項目、チームの目標達成のための行動 5 項目、患者を尊重した治療・ケアの提供 5 項目、チームの凝集性を高める態度 4 項目、専門職としての役割遂行 4 項目で構成される。各項目とも実践の程度を「5: そうである」から「1: そうでない」の 5 段階で回答を得るものであり、総得点は最低 29 点、最高 145 点となり、得点が高いほど IPW 能力が高いことを示す。

### (3) コミュニケーション能力

対人関係を円滑にする社会的スキルを測定する Kikuchi's Scale of Social Skills: 18items (以下、KiSS-18) を用いてコミュニケーション能力を測定した<sup>12)</sup>。本尺度は他人と上手く話すこと等に関する認識を問う 18 項目で構成される。各項目とも「5: いつもそうだ」から「1: いつもそうでない」の 5 段階で評価する。総得点は最低 18 点、最高 90 点となり、点数が高いほど社会的スキルが高く、コミュニケーション能力が高いことを示す。

### (4) 演習へ積極的に参加できたか

演習へ積極的に参加できたか (以下、積極性) について、「5: できた」から「1: できなかった」の 5 段階で回答を得た。また、自由記述でその理由を尋ねた。

### (5) 演習の満足度

演習の満足度 (以下、満足度) について、「5: 満足」から「1: 不満」の 5 段階で回答を得た。また、自由記述でその理由を尋ねた。

### (6) 自職種の理解を深める必要があると感じたか

演習を通して自職種の理解を深める必要があると感じたか (以下、自職種理解) について、「5: 感じた」から「1: 感じなかった」の 5 段階で回答を得た。

### (7) 他職種を理解しようと思う機会となったか

演習を通して他職種を理解しようと思う機会となったか (以下、他職種理解) について、「5: なった」から「1: ならなかった」の 5 段階で回答を得た。

なお、質問項目のうち (4) 積極性、(5) 満足度、(6) 自職種理解、(7) 他職種理解をまとめ、演習に関する質問とした。

## 5. 調査期間

2023 年 4 月から 9 月

## 6. 分析方法

信頼性係数の Cronbach の  $\alpha$  係数について、CICS29 総得点は演習前 0.93、演習後 0.94 であり、KiSS-18 総得点は演習前 0.89、演習後 0.94 であり、内的一貫性が確認され、いずれも総得点を算出した。また、CICS29 の各下位尺度については 0.64~0.86 であり、内的一貫性が確認されない下位

尺度もあったが、信頼性と妥当性が検証された尺度であるため、下位尺度ごとの総得点を用いて以下の分析を行った。

正規性の検定により、演習前後の CICS29 総得点と演習前の KiSS-18 総得点のみ正規分布することを確認した。

IPW 能力への教育効果を検証するため、*t* 検定により演習前後の CICS29 総得点を比較した。また、CICS29 各下位尺度の総得点の比較については、ウィルコクソンの符号順位検定を行った。

コミュニケーション能力への教育効果を検証するため、ウィルコクソンの符号順位検定により演習前後の KiSS-18 総得点を比較した。

IPW 能力とコミュニケーション能力への教育効果について、演習へ積極性、満足度、自職種理解、他職種理解の点から検証するため、CICS29 総得点、KiSS-18 総得点と演習に関する質問とのスピアマンの順位相関検定を行った。

IPW 能力とコミュニケーション能力の相関関係について検証するため、演習前後の CICS29 と KiSS-18 総得点にスピアマンの順位相関検定を行った。

いずれも有意水準は 5%未満とし、分析には SPSS ver.27 を使用した。

自由記述の回答については、単純集計し、類似性のある記述をまとめて要約した。

## 7. 倫理的配慮

研究対象者に対し、本研究の目的、本研究への参加と中断の自由、参加・不参加による不利益が生じないこと、プライバシーの保護やデータの管理、回答および提出により同意が得られたものとするを口頭および説明文書にて説明し、同意を得た。本研究は A 大学大学院保健学研究科の倫理委員会の承認を得て行った（整理番号:2022-038）。

## III. 結果

演習前後で対象者 47 名に質問紙を配布し、36 名から回答が得られ、36 名全員を分析対象とした。有効回答率は 76.6%であった。

### 1. 基本属性

参加者の基本属性を表 1 に示した。所属大学は A 大学 25 人 (69.4%)、B 大学 10 人 (27.8%)、C 大学 1 人 (2.8%) であった。所属専攻は看護学専攻 14 人 (38.9%)、医学科 9 人 (25.0%)、作業療法学専攻 6 人 (16.7%)、検査技術科学専攻 2 人 (5.6%)、放射線技術学専攻 2 人 (5.6%)、心理支援科学科 2 人 (5.6%)、言語聴覚学専攻 1 人 (2.8%) であった。学年は 2 年生 2 人 (5.6%)、3 年生 17 人 (47.2%)、4 年生 16 人 (44.4%)、5 年生 1 人 (2.8%) であった。

表 1 参加者の基本属性 n=36

設問	選択肢	n	%
大学名	A 大学	25	69.4
	B 大学	10	27.8
	C 大学	1	2.8
学科 専攻	看護学専攻	14	38.9
	医学科	9	25.0
	作業療法学専攻	6	16.7
	検査技術科学専攻	2	5.6
	放射線技術科学専攻	2	5.6
	心理支援科学科	2	5.6
	言語聴覚学専攻	1	2.8
学年	2 年生	2	5.6
	3 年生	17	47.2
	4 年生	16	44.4
	5 年生	1	2.8

## 2. IPW 能力への教育効果

演習前後の IPW 能力を測定した CICS29 総得点について表 2 に示した。CICS29 総得点は演習前 113.3±13.7 点、演習後 125.3±12.1 点であり、演習後、有意に上昇した ( $p < 0.05$ )。

表 2 演習前後の CICS29 総得点の比較 n=36

時期	平均値	標準偏差	<i>p</i>
演習前	113.3	13.7	**
演習後	125.3	12.1	

*t* 検定 \*\* $p < 0.01$

演習前後の CICS29 下位尺度別の総得点について表 3 に示した。プロフェッショナルとしての態度・信念は、演習前は中央値 25 (四分位範囲; 21-27) 点、演習後は中央値 27 (四分位範囲; 25-29) 点であった。チーム運営のスキルは、演習前は中央値 20 (四分位範囲; 18-23) 点、演習後は中央値 23 (四分位範囲; 20-24) 点であった。チームの目標達成のための行動は、演習前は中央値 18 (四分位範囲; 15-20) 点、演習後は中央値 21 (四分位範囲; 19-23) 点であった。患者を尊重した治療・ケアの提供は、演習前は中央値 19 (四分位範囲; 17-21) 点、演習後は中央値 21 (四分位範囲; 20-23) 点であった。チームの凝集性を高める態度は、演習前は中央値 16 (四分位範囲; 15-18) 点、演習後は中央値 18 (四分位範囲; 16-20) 点であった。専門職としての役割遂行は、演習前は中央値 15 (四分位範囲;

困；14-17）点，演習後は中央値 17（四分位範囲；16-19）点であった。いずれも演習後，有意に上昇した（ $p < 0.05$ ）。

表 3 CICS29 下位尺度別の総得点の比較 n=36

下位尺度名	時期	中央値	四分位範囲	p
プロフェッショナルとしての態度・信念	演習前	25	21-27	**
	演習後	27	25-29	
チーム運営のスキル	演習前	20	18-23	**
	演習後	23	20-24	
チームの目標達成のための行動	演習前	18	15-20	**
	演習後	21	19-23	
患者を尊重した治療・ケアの提供	演習前	19	17-21	**
	演習後	21	20-23	
チームの凝集性を高める態度	演習前	16	15-18	**
	演習後	18	16-20	
専門職としての役割遂行	演習前	15	14-17	**
	演習後	17	16-19	

ウィルコクソンの符号順位検定 \*\* $p < 0.01$

### 3. コミュニケーション能力への教育効果

演習前後のコミュニケーション能力を測定した KiSS-18 の総得点について表 4 に示した。演習前は中央値 62（四分位範囲；56-70）点，演習後は中央値 72（四分位範囲；63-82）点であり，演習後，有意に上昇した（ $p < 0.05$ ）。

表 4 演習前後の KiSS-18 総得点の比較 n=36

時期	中央値	四分位範囲	p
演習前	62	56-70	**
演習後	72	63-82	

ウィルコクソンの符号順位検定 \*\* $p < 0.01$

### 4. 積極性，満足度，自職種理解，他職種理解について

演習に関する質問の回答得点について表 5 に示した。積極性は  $4.6 \pm 0.7$  点，標準誤差 0.11，満足度は  $4.8 \pm 0.5$  点，標準誤差 0.08，他職種理解は  $4.8 \pm 0.4$  点，標準誤差 0.07，自職種理解は  $4.9 \pm 0.3$  点，標準誤差 0.05 であった。

積極性に関する理由については 32 人（86.1%）から回答が得られた。回答の内容は，自分の意見を示すことができた（ $n=20$ ），意見交換ができた（ $n=4$ ），力不足を感じた（ $n=2$ ），多職種連携は大切だと思ったため（ $n=2$ ），意見をまとめることができたため（ $n=2$ ），演習の機会を有効活用したかっ

たため（ $n=1$ ）であった。

満足度に関する理由については 33 人（91.2%）から回答が得られた。回答の内容は，他職種の学生と意見交換できた（ $n=16$ ），他職種の考えを知ることができた等の回答が得られた。他職種の役割や考え，連携方法等の点から IPW に関する考えが深まった（ $n=10$ ），多職種連携ができた（ $n=3$ ），知識不足等の理由で力不足を感じた（ $n=2$ ），良い刺激となった（ $n=1$ ），事例をもう少しわかりやすくして欲しい（ $n=1$ ）であった。

表 5 演習に関する質問の回答得点 n=36

設問	平均値	標準偏差	標準誤差
積極性	4.6	0.7	0.11
満足度	4.8	0.5	0.08
自職種理解	4.9	0.3	0.05
他職種理解	4.8	0.4	0.07

### 5. IPW 能力，コミュニケーション能力と演習に関する質問の相関関係

CICS29 総得点，KiSS-18 総得点と演習に関する質問との相関分析の結果を表 6 に示した。演習前の CICS29 総得点と KiSS-18 総得点については，演習に関する質問との相関関係が認められなかった。演習後については，CICS29 総得点について，満足度（ $r=0.35$ ， $p < 0.05$ ），他職種理解（ $r=0.48$ ， $p < 0.01$ ），自職種理解（ $r=0.39$ ， $p < 0.05$ ），積極性（ $r=0.42$ ， $p < 0.05$ ）との項目に有意な正の相関が認められた。また，KiSS-18 総得点について，他職種理解（ $r=0.51$ ， $p < 0.01$ ），積極性（ $r=0.54$ ， $p < 0.01$ ）との項目に有意な正の相関が認められた。

表 6 CICS29 総得点，KiSS-18 総得点と演習に関する質問との相関関係 n=36

演習に関する質問	CICS29 総得点		KiSS-18 総得点	
	演習前	演習後	演習前	演習後
積極性	0.10	0.42*	0.32	0.54**
満足度	-0.03	0.35*	0.10	0.30
自職種理解	0.26	0.39*	0.23	0.18
他職種理解	0.20	0.48**	0.23	0.51**

スピアマンの順位相関検定 \* $p < 0.05$  \*\* $p < 0.01$

### 6. IPW 能力とコミュニケーション能力の相関関係

CICS29 総得点と KiSS-18 総得点について相関分析を行った結果を表 7 に示した。演習前の CICS29 総得点と KiSS-18 総得点に有意な正の相関が認められた（ $r=0.66$ ， $p$

<0.01)。また、演習後の CICS29 総得点と KiSS-18 総得点に有意な強い正の相関が認められた ( $r=0.87, p<0.01$ )。

表7 IPW 能力とコミュニケーション能力との相関関係 n=36

		CICS29 演習前	CICS29 演習後	KiSS-18 演習前
CICS29	演習前	-	-	-
	演習後	0.45**	-	-
KiSS-18	演習前	0.66**	0.49**	-
	演習後	0.50**	0.87**	0.58**

スピアマンの順位相関検定 \*\* $p<0.01$

#### IV. 考察

本研究では、医療系学生を対象としたワークショップ形式の IPE によるコミュニケーション能力と IPW 能力への教育効果を検証した。その結果、演習を行うことで CICS29, KiSS-18 総得点は有意に上昇したことから、IPW 能力とコミュニケーション能力への教育効果があることが明らかとなった。

##### 1. IPE による IPW 能力への教育効果

IPE については、講義ではできない IPW を体験する演習が有用であることが複数報告されている<sup>2-7)</sup>。本研究においても、実際に多職種 of 学生同士で各専門職の立場から意見を述べ合い、チームが円滑に機能するように調整するといった体験をするワークショップを展開した。しかし、学生全員が積極的に参加できなければ有意な体験とならず、IPW 能力を高めることができない学生もいることが予想された。本研究では、自職種としての意見を述べる等により積極的に参加することができた多数の学生が認識し、自分の意見を述べるだけでなく多職種の意見を聞くことができたといった経験から満足感も高かったことが伺えた。また、CICS29 総得点と演習へ積極的に参加できたか、演習への満足度、自職種理解、他職種理解の項目に正の相関が認められた。自職種、他職種に関心を持ち、積極的に演習ができたことで、高い満足感が得られ、IPW 能力の向上につながったと推察された。この要因について、グループメンバーがリーダーからの圧力や失敗したら笑われるといった思いを抱かず、意見を述べやすいグループとする方法をグループダイナミクス<sup>13)</sup>の点から学生に事前学習してもらった。また、自専門職として述べるべき意見があっても集団圧力により多職種の意見を優先して発言を控えることがないように、学生自身が気をつけるだけでなく、同じグループの他の学生の意見を促す必要性についても事前学習してもらった。こうした知識を持った上で、アイスブレイキ

ングに加え、事例を多系統萎縮症にすることで調べて確認し合うことから始められるようにした。こうした工夫により、各専門職としての意見を述べやすいグループとなり、IPW の有意な体験ができたため、IPW 能力が向上したと考えられた。

##### 2. IPE によるコミュニケーション能力への教育効果

チーム医療におけるコミュニケーションについては、正確に情報を伝え、不明点があれば確認する双方向のコミュニケーションと、お互いの意見や立場を大切にアサーションの定着が必要とされる<sup>14)</sup>。本研究では、KiSS-18 総得点が演習後に有意に上昇し、KiSS-18 総得点と演習への積極性、他職種理解の項目に正の相関が認められた。また、自由記述の回答から、自分の意見を述べ、他職種の意見を聞くといった体験ができたことで積極的に参加できたことが伺えた。この要因について、事前にグループダイナミクス<sup>13)</sup>や集団圧力等について学習し、複数人のグループでのコミュニケーションにおける様々な留意点を理解した上で演習を行った。それに加えて円滑なコミュニケーションが行われるように、アイスブレイキングや普段聞きなれない症例であり、チームメンバーが協力して情報収集しなければならない難病指定の事例を用いたことで様々な診断を想定しながらチーム内で活発に意見交換が行われた。こうした経緯により、多くの学生が他者の意見を尊重するとともに、積極的に他の職種とコミュニケーションを行ってその能力を向上させることができたといえる。

##### 3. IPW 能力とコミュニケーション能力との関係性

演習前後ともに CICS29 総得点、KiSS-18 総得点の間に正の相関が認められた。また、KiSS-18 総得点と積極性、他職種理解に正の相関が認められたことから、コミュニケーション能力が高いほど多職種と積極的に意見交換を行い、IPW 能力も高くなっている可能性が示唆された。IPW について、多職種連携コンピテンシーモデルにおける4つのドメインとして、職種の役割を全うする、関係性に働きかける、自職種を省みる、多職種を理解するという能力があり、そしてそれらの能力すべてに関わるものとして、職種間コミュニケーションが不可欠とされる<sup>15)</sup>。したがって IPW はコミュニケーション能力の基盤なしには展開できない。医療系学生のコミュニケーション能力の低下が指摘され、その教育が求められる中<sup>16)</sup>、コミュニケーション能力を高めることが IPW の向上に不可欠であることを示す知見が得られたことは重要である。

##### 4. 本研究の限界

本研究では参加希望者のみで演習を行っており、参加人数の少ない職種や演習に参加していない職種の学生がいたことから、対象者の属性に偏りがある。また、教育効果を検証するための対照群を設定することが困難であったことから、今後は対象者を増やし、学年別や職種別の比較、対

照群との比較を行い、より詳細な教育効果を検討する必要がある。

## V. 結語

本研究では、医療系学生が意見交換し、ケアの方針を立てるワークショップ形式の IPE を行った。専門職として自身の意見を述べ、専門外の分野については多職種の見を求めることにより、IPW 能力とコミュニケーション能力が向上したと考えられた。

**利益相反** 開示すべき利益相反はありません。

**謝辞** 本研究の実施にあたり、調査にご協力いただいた対象者の皆様、演習の運営に協力して頂いた教職員の皆様に心より御礼申し上げます。

## 引用文献

- 1) 神原正樹, 片岡竜太, 森實敏夫, 他: 医療における多職種連携教育の必要性-とくに、疾患予防教育について-. *ヘルスサイエンス・ヘルスケア*, 15(2): 60-65, 2015.
- 2) Bloomfield JG, Schneider CR, et al.: Evaluating a large-scale introductory interprofessional education workshop for developing interprofessional socialisation in medical, nursing and pharmacy students: A quasi-experimental pre-test post-test study. *Nurse education today*, 99: 1-8, 2021.
- 3) Bradway C, Cotter VT, et al.: An Interprofessional Education Simulation Workshop: Health Professions Learning Palliative Care Communication. *The journal of nursing education*, 57(8): 493-497, 2018.
- 4) 田村由美, ボンジェペイター, 多留ちえみ, 他: IPE 科目の効果: クラスルーム学習と合同初期体験実習が大学一年生の IPW 学習に及ぼす影響. *保健医療福祉連携*, 4(2): 84-95, 2012.
- 5) 志田淳子, 大塚真理子, 佐藤可奈他, 他: 看護学生が認識するクリニカル IPE の効果および課題の明確化-同じフィールドで行われている他大学薬学部との IPE の試み-. *日本看護科学学会誌*, 39: 1-9, 2019.
- 6) Shimizu I, Mori J, et al.: "Modified World Café" workshop for a curriculum reform process. *THE ASIA PACIFIC SCHOLAR MEDICAL AND HEALTH PROFESSIONS EDUCATION*, 4(1): 55-58, 2019.
- 7) 相沢文恵, 藤澤美穂, 佐藤洋一, 他: 「チーム医療リテラシー」参加による学生の社会的スキルと IPE の準備状況の変化. *岩手医科大学教養教育研究年報*, 52: 45-54, 2017.
- 8) 厚生労働省: 専門職連携教育・多職種連携 InterProfessional Education InterProfessional Work (IPE/IPW). <https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000758933.pdf> (2023-12-26)
- 9) Canadian Interprofessional Health Collaborative: A National interprofessional Competency Framework. [https://drive.google.com/file/d/1Des\\_mznc7Rr8stsEhHx18XMjgiYWzRIn/view](https://drive.google.com/file/d/1Des_mznc7Rr8stsEhHx18XMjgiYWzRIn/view) (2023-12-26)
- 10) Interprofessional Education Collaborative: Core Competencies for Interprofessional Collaborative Practice. <https://www.aacnursing.org/portals/0/pdfs/population-health/IPECReport.pdf> (2023-12-21)
- 11) Sakai I, Yamamoto T, et al.: Development of a new measurement scale for interprofessional collaborative competency: The Chiba Interprofessional Competency Scale (CICS29). *Journal of Interprofessional Care*, 31(1): 59-65, 2017.
- 12) 菊池章夫: KiSS-18 研究ノート. *岩手県立大学社会福祉学部紀要*, 6(2): 41-51, 2004.
- 13) 宮本匠, 日比野愛子: グループ・ダイナミックスの<時間>. *実験社会心理学研究*, 56(1): 45-47, 2016.
- 14) 北島茂樹: 効果的なチームアプローチのための視点. *日本摂食嚥下リハビリテーション学会誌*, 8(1): 3-9, 2004.
- 15) 春田淳志: 【専門職連携コンピテンシー】多職種連携コンピテンシーの国際比較. *保健医療福祉連携*, 9(2): 106-115, 2016.
- 16) 長家智子: 看護学生のコミュニケーションに関する研究: 生活体験と集団行動体験とコミュニケーション能力との関係に焦点を当てて. *九州大学医学部保健学科紀要*, 1: 71-82, 2003.

## 【Original article】

# Educational effectiveness of Interprofessional Work workshops for medical students on practical skills and communication

HIDEYOSHI KON<sup>\*1</sup> HIDEYOSHI KON<sup>\*1</sup> HIDETAKA NARITA<sup>\*2</sup> TOSHIFUMI FUJITA<sup>\*2</sup>  
AKEMI FUJITA<sup>\*2</sup> OSAMU NOMURA<sup>\*3</sup> MAKOTO TANAKA<sup>\*2</sup>  
MIYUKI FUJIOKA<sup>\*2</sup> HIKARU OBA<sup>\*2</sup> CHIAKI KITAMIYA<sup>\*2</sup>  
KOHSEI KUDO<sup>\*2</sup> HIROSHI KIJIMA<sup>\*3</sup> TOSHIKO TOMISAWA<sup>\*2</sup>

(Received January 31, 2024 ; Accepted April 1, 2024)

**Abstract:** This study aimed to verify whether Interprofessional Education in the form of workshop exercises has educational effects on Interprofessional Work (IPW) skills and communication skills. The participants were medical students from three universities. During the exercise, groups of five to six participants exchanged opinions about the care of patients with multiple system atrophy as professionals and summarized their policy of care. A presentation and question-and-answer session were then held. The survey method was a pre- and post-exercise questionnaire. The survey items included basic attributes such as grade and occupation. IPW ability was measured using CICS29, and communication ability was measured by KiSS-18. The significance level was set at less than 5%. The respective scores before and after the exercise were compared. Thirty-six participants who responded to the questionnaire were included in the study. The CICS29 total score was 113.3±13.7 before and 125.3±12.1 after the exercise; moreover, the KiSS-18 total score was 62 (IQR; 56–70) before and 72 (IQR; 63–82) after the exercise. The participants' IPW and communication skills improved as a result of expressing their opinions as professionals and seeking the opinions of other professionals in areas outside their expertise during the exercise.

**Keywords:** Interprofessional Work, Interprofessional Education, Communication, Education, Workshop